

平成28年度 宇都宮市自転車のまち推進協議会

日 時 平成29年3月29日（水）午後1時30分から午後3時45分

場 所 宇都宮市役所14A会議室

出席者 別紙名簿参照

内 容 1 開会

2 挨拶

3 委員紹介

4 議事

(1)「宇都宮市自転車のまち推進計画後期計画」の平成28年度の取組内容と
平成29年度の取組予定について

(2)「自転車ネットワーク路線」の追加（案）について

5 講話

・自転車活用推進法等について

株式会社三井住友トラスト基礎研究所 研究理事 古倉 宗治 氏

6 その他

7 閉会

【主な発言・意見】

議事

(1)【「宇都宮市自転車のまち推進計画後期計画」の平成28年度の取組内容と平成29年度の取組予定について】

<会長>

- ・事務局から、今年度の取組内容と来年度の取組予定について、説明を頂いた。
- ・JR宇都宮駅の定期利用者のキャンセル待ちが多いことなどからも、レンタサイクルと駐輪場問題は一緒に検討を進める必要がある。
- ・自転車の車体自体に高額な費用がかかる民間事業者との連携ではなく、放置自転車を活用した「宇都宮方式」のレンタサイクルはコストもかからず、効果的であると考える。
- ・全国的にも進められているシェアサイクルは公共交通の一部としてとらえることができるため、通学で利用された自転車を通勤者がさらに利用することを想定して、1日だけのレンタルではなく、日をまたぐレンタルも検討してほしい。
- ・LRTのすべての停留場に駐輪場を整備する予定とのことであるが、併せてシェアサ

イクルの導入も検討していただきたい。

<事務局>

- ・現在のレンタサイクルは、有人管理で行っているが、今後、誰もが気軽にシェアサイクルを利用できるよう、LRTの交通系ICカードの導入に合わせて検討していく必要があると考えている。

<委員>

- ・宇都宮市は自動車通勤の割合が多く、自転車通勤促進は非常に重要な取組であると思う。現在、まだまだ取組が抽象的であるため、車から自転車への転換を図れるよう、社員に対して自転車通勤促進に取り組んでいる企業への優遇措置や、表彰制度など、もっと具体的な事業に取り組んでいただきたい。

<会長>

- ・以前から、自動車通勤から自転車通勤への転換が課題であった。

<アドバイザー>

- ・名古屋市役所では、自動車通勤の通勤手当を1/2に、自転車通勤の通勤手当を2倍にしたところ、自転車通勤者が2倍以上に増加した。豊橋市役所でも通勤手当を見直したところ、4割程度、自転車通勤者が増加した。
- ・通勤時の事故の増加が懸念されるところであるが、通勤距離にもよるが、通勤手段の種別ごとで見ると、交通事故の件数は、100人中、自動車は3.2件、自転車は1.6件であった。

<事務局>

- ・宇都宮市役所においては、車も自転車も今は同額である。平成29年度は、民間企業の状況調査を行い、自転車通勤促進策について検討していく。

<アドバイザー>

- ・以前、福島市と静岡市の企業において、自転車通勤に対する考え方を調査した。実態としては、長期的には推進していきたいという企業が約半分近くあったが、実際は自転車通勤手当の支給は10%程度しか行っていないということであった。

<委員>

- ・平成28年度の取組で実施した、サイクルアンドバスライドの取組は公共交通の利用促進のためにとっても効果的であると考えている。

<会長>

- ・サイクルアンドバスライド事業におけるサインがいくつかあったり，設置されていない箇所があるようだが，今後，外国人への配慮のため，ユニバーサルデザインに統一することを検討していただきたい。
- ・本市の取組は先進事例であり，国のガイドラインにも載っている。

<事務局>

- ・本市が設置しているサインはもともと関東自動車を設置したものが始まりであり，現在は，バス事業者用地・県道・市道の各設置箇所の管理者がそれぞれサインを設置している。

<委員>

- ・国では，サイクルアンドバスライドの整備は行っていないが，市が事業を推進していることは認識しており，現在進めている国道4号の歩道整備事業において，サイクルアンドバスライドの整備について検討していきたいと考えている。
- ・整備する場合には，サインは市のもを参考にするにとしたい。

<会長>

- ・県においても，統一していくことを検討していただきたい。

<委員>

- ・那須では，ブルーのラインをひいて，それが自転車の走行空間であることが周知されてきたが，矢羽根など，様々なものが混在している。今後，オリンピックもあることから，国際規格に統一していくことも検討していただきたい。

<会長>

- ・2012年に，「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」が策定され，2016年に改定された。この中で，矢羽根のマークなどの規格が統一された。京都などの昔ながらの観光地では，違う色を使用しているが，これからは，青い色は自転車走行空間であることがわかっていくのではないかと。

<委員>

- ・富山では，LRTと自転車の連携させるよう，放置自転車を利用してシェアサイクルを実施しており，有効な取組であるようだ。宇都宮市は放置自転車をどのように利活用しているか。

- ・カード型のシェアサイクルはコストも高いため、放置自転車を利用する手法を進めていただきたい。

<会長>

- ・富山は放置自転車の利用と、車体価格の高いシェアサイクルの両方を活用している。
- ・宇都宮市では、今後も、コストをかけずに、放置自転車を活用する宇都宮方式を進めていただきたい。

議事

(2)【「自転車ネットワーク路線」の追加（案）について】

<会長>

- ・自転車ネットワーク路線の追加について事務局から説明を頂いた。
- ・整備の考え方であるが、各事業の進捗にあわせて変化させていいのではないかと。
- ・国のガイドラインでも、宇都宮市にならって、「理想形で進めていくだけでなく、整備できる箇所から段階的に整備を進める」としている。
- ・オリオン通りに宇都宮大学と宇都宮市の共同研究で自転車のスピード・台数を24時間計測できる自転車センサーを設置したところである。
- ・以前、国道4号で設置いただいたところであるが、商店街では日本初である。
- ・これにより押しチャリや自転車の迂回などの取組の効果測定を行うことができる。

<アドバイザー>

- ・福岡市の天神で実施されている押しチャリ条例はあまり守られていないようだ。特に、指導員がいる場合は守られるが、指導員がいない場合は守られていない。
- ・姫路で実施した調査では、押しチャリは100m以内であれば守るとの意向が46%であった。
- ・押しチャリを我慢できる距離などの調査を行い、その限界距離ごとに迂回路や指導員を配置し、継続的に押しチャリが行われるような取組も必要である。

<会長>

- ・オリオン通り周辺に、3つの駐輪場があるが、オリオン通りに来る方の駐輪対策が必要である。
- ・自転車利用の指導教育やマナーの向上など、ソフト面での取組も進めていただきたい。

<委員>

- ・LRT事業により、県道宇都宮向田線の国道4号から西側は自転車走行空間が狭くなる

ことから自転車ネットワークを分散させる路線を今回新たに追加しているのだと思うが、当該区間における既存の自転車ネットワークの位置づけについてはどのように考えているのか。

<事務局>

- ・自転車は、原則、車道を走行するものであり、鬼怒通りを自転車が走行しなくなるかどうかは、現時点では不明であり、L R T事業の実施や周辺道路の自転車走行空間の整備による自転車利用者の動向の変化を見極めながら、今後検討していく。

<委員>

- ・ジャパンカップサイクルロードレース開催時は、森林公園周辺の道路などの導線が飽和状態となる。
- ・長期的な取組になるとは思いますが、さらなる環境整備についても検討していただけるとのことなので、ぜひ、施設整備などを進めていただきたい。

<会長>

- ・現在、様々なイベントなどで、年間を通して、ジャパンカップロードレース会場が利用されている。
- ・また、今年度、J Rの宇都宮駅から森林公園までのルートを示すサインの整備が行われるなど、様々な観点で、取組が進められていることから、今後もますます事業が展開していくと思われる。